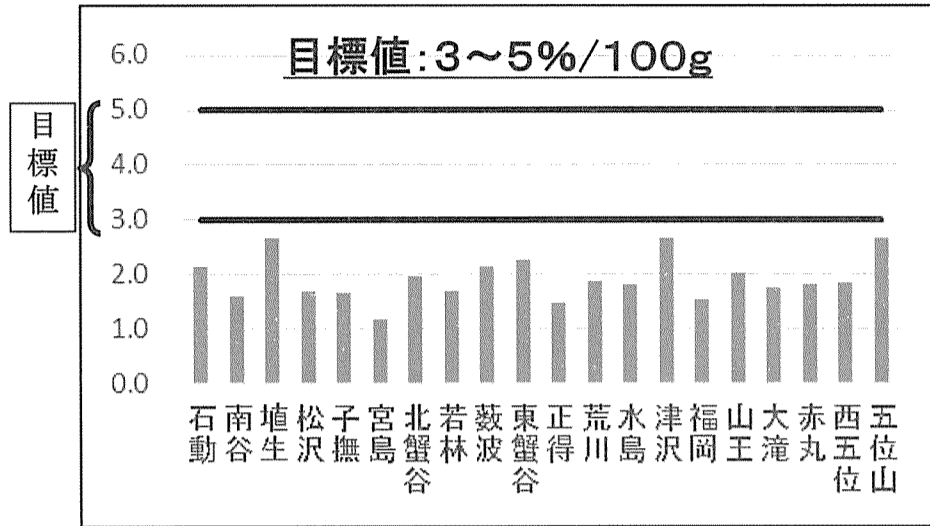


### 3 土壌分析結果

昨年、JAいなば管内の100地点で実施した土壌分析結果から全体的に地力の低下が見られます。中でも特に不足が著しい次の2項目を紹介します。

**腐植** ⇒土壌に含まれる有機物の割合を表します。JAいなば管内の全ての地区で目標を下回っています。このため下記の対策を行きましょう。

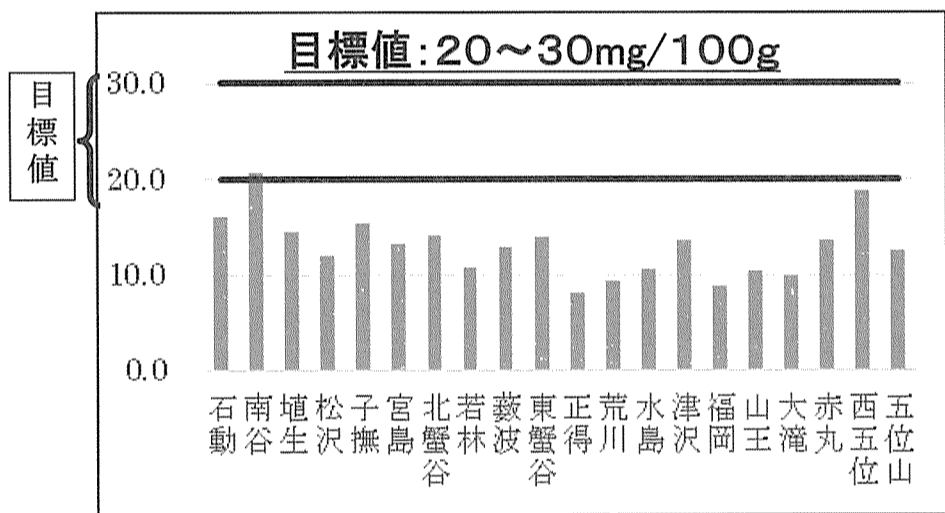


—腐植の効果—  
 ①養分の保持力の向上  
 ②透水性、保水性、通気性の向上  
 ③微生物の生息数の増加

**対策**  
 ①稲わらのすき込み（基本）  
 ②完熟たい肥の施用  
 ③地力増進作物(緑肥作物)の導入

**有効態ケイ酸** ⇒作物が吸収できる珪酸の土壌に含まれる量を表します。

JAいなば管内の全ての地区で目標を下回っています。このため下記の対策を行きましょう。



—ケイ酸の効果—  
 ①茎葉を強くし、耐病性、耐倒伏性を向上  
 ②根を健全にし、有害物に対する抵抗性向上  
 ③水分の蒸散を抑制

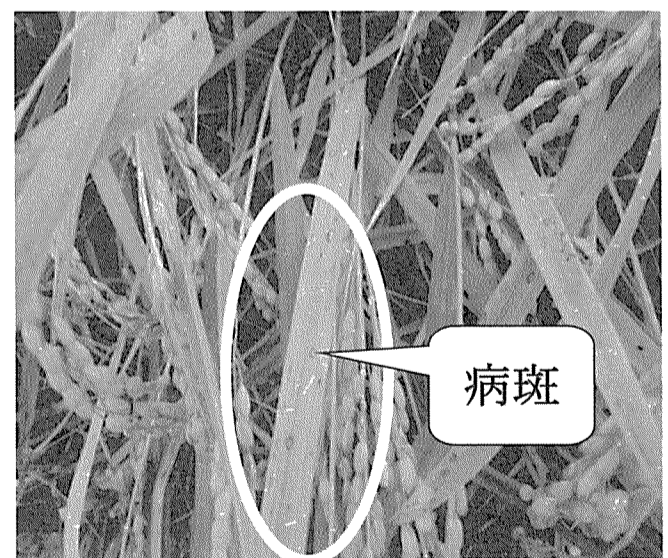
**対策**  
 ①継続的なケイ酸質資材の施用

### 4 ごま葉枯病

近年、養分保持力の小さい浅耕土や砂質土壌などの地力の低いほ場で発生が確認され、品質や収量への影響が懸念されています。(写真)

#### 対策

- ・ケイ酸やカリ等を含む土壌改良資材を施用する。
- ・完熟堆肥等の有機物を積極的に施用する。
- ・作土層が浅い場合は、土壌中の根の分布を広げるために深耕に努める。
- ・中干しを徹底し、根の活力を維持する。
- ・生育後半の栄養を確保する(適切な穂肥施用等)。



ごま葉枯病

☆平成29年産米栽培がスタートします。

水稻栽培管理記録表の記入やGAP活動を実践し、安全で安心なメルヘン米の生産を行きましょう！